

沖縄県立博物館・美術館

開館 10 周年特別展『海の沖縄』

開催期間：平成29年11月3日（水）～平成30年1月14日（日）



【企画展の内容・目的】

- 沖縄県立博物館・美術館 10 周年特別展「海の沖縄—開かれた海への挑戦—」と銘打って「海」を切り口に、様々な表情を持ち、意外性あふれる海と沖縄の関係について、これまで蓄積した調査・研究成果を基に紹介した。また、総合博物館ならではの視点で自然史や歴史学、美術工芸などの様々な分野から「海」を扱うと共に、子供でも楽しく学べるよう体験キットやジオラマ、映像等を多用した展示を行い、我々にとって海がどれほど身近にあるのか、どれほどかかせないものなのかを再認識する機会となった。
- 関連イベントとして、学芸員出前講座や特別展関連講座、体験学習教室やワークショップ等を実施し、沖縄と海との自然・歴史・民族的な関わり等についてや将来における海との関わり方について、大人から子供まで学習する機会となった。
- 特別展『海の沖縄』の移動展を本島のみならず北大東村で実施し、海に関わる研究成果に触れる機会が少ない北大東村民にその成果を提供することで、従来より広い範囲への海の学びの機会を提供する事ができた。

1. 沖縄県立博物館・美術館開館 10 周年特別展『海の沖縄』

■開催期間：平成29年11月3日（水）～平成30年1月14日（日）

■開催場所：沖縄県立博物館・美術館特別展示室

■入場者数：8,711人



沖縄県立博物館・美術館 外観



企画展会場 入口



特別展会場展示状況



展示案内状況

第1章 プロローグー海の自然と大地ー・第2章 海のめぐみー豊穡の海ー

海を自然（生物・地学）の観点から学び、そもそも「海」とはどのようなものなのか、沖縄の海の特徴は何か、世界有数の速度を誇る黒潮、そしてそこから育まれる生物があることを紹介しました。生物だけではなく、我々が住む島々の多くは石灰岩で形成されており、その起源は海であり、我々の立つ大地すらも海で形成されていることを、石灰岩に含まれる生物等をとおして海の恵みを実感する場としました。

また、海の資源資料を抜きにして琉球列島の自然と歴史・文化を語ることはできません。我々の身の回りには実に多くの海が存在しています。食料資源となってきた海産物、サンゴやビーチロックを利用した建築材、石灰・漆喰の生産、道具類など、琉球の海が人々の暮らしにいかに様々な恵みをもたらしているのかを学び、海の大切さについて気づく機会としました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。



第3章

第4章

第3章 ヒト、海を越える—荒波を越えて—

旧石器時代、人は船を利用して海を越え、それまで無人だった琉球列島に初めて到達し、様々な島々に広がって適応していきました。島で生きるためには海洋資源の利用も必要であり、その採集にも船が利用されました。琉球王国時代には大量の物資運搬が可能な大型船を駆使し、黒潮を越えてアジアの国々との交易が行われていました。近代には海を越えて外国へと移民する沖縄人も多く現れていますが、沖縄人は過去から既に船を利用して海を駆け巡っていたことを紹介し、人々の暮らしや文化は海を越えて育まれていたことを学ぶ機会としました。

第4章 いのりの海—畏敬の海—

海は豊穡の恵みをもたらすだけでなく、時には荒れ狂い、災害として多くの人の命をも奪ってきました。沖縄の人々にとって、海はむしろ畏怖・畏敬の念を抱かせる存在であり、容易に足を踏み入れる場所ではなかったのです。日々の食料を与えてくれる海は、サンゴ礁が作り上げたイノー（礁池）であり、そこまでが日常の世界でした。サンゴ礁の縁（リーフ）を飛び越えた外海は、紺碧の恐ろしい海がひろがる非日常の世界でした。その外海の遠い世界のことを沖縄の人々は「ニライカナイ」と呼び、進行の対象として様々な「いのり」を捧げてきました。

本章では海に畏怖・畏敬の念をいだき、時には信仰の対象として様々な「いのり」が行われてきた琉球列島で育まれてきた祈りの形について学び、海には恵みを与える面の他に、畏怖と畏敬を与える一面がある事を知る機会としました。



第5章 海の美—さまざまな表現—



第6章 エピローグ—これからの海—

第5章 海の美—さまざまな表現—

海の恵みは古来私たちの暮らしを豊かにしてくれました。先史時代から人々は貝殻や生き物の骨に装飾性をもたせ、ビーズや貝輪、輝く貝の匙など、海の恵みを基にした道具やアクセサリが誕生しました。近世になると貝は加工され、漆芸の螺鈿細工へと展開し、琉球と中国や大和をつなぐ重要な役割を持つ工芸品の一つとなりました。また、中国や日本の影響を受けた沖縄の建築物や工芸品には、幸福のシンボルとしてダイナミックな波や魚介模様がみられます。

近世、近代を経て、海の恵みが人々の暮らしや文化を豊かにしていったさまを紹介するとともに、波や魚介などの海のもちーフが豊穡への祈りとなっていった様子を紹介し、海が暮らしや文化にとって深く根付く重要なものであったことを美術的な視点から知る機会としました。

第6章 エピローグ—これからの海—

現在、世界の目は海洋資源の開発と利用に向けて、海への注目がますます高まっています。様々な分野で海をテーマとした先進的な研究が行われており、琉球列島はその波の渦中にあると言っても過言ではありません。本章では展示のまとめとして、琉球列島で展開されている最先端の海洋研究や海の利用について学び、未来への希望を想像してみるような展示に努めました。

世界的な過剰消費により枯渇が心配される海洋資源、特に魚介類の減少は私たちの暮らしにどんな影響を与えていくのか？大きな災害が増えたといわれる昨今、最新の気象研究、特に海と関連の深い台風事情はどう変化しているのか？さらに、海に沈んだ水中文化遺産を有効活用するにはどうしたらよいのか？など、現在の海を取り巻く様々な課題について紹介し、今後の私たちの暮らしにおいて、海洋環境の維持や生物資源の持続可能な利活用の必要性などについて考える機会としました。

【来館者の声】

○回答内容A：ビデオで「山と海が繋がっている」という内容のものがありませんでした。新しい気付きでした。あのようなビデオや展示はもっと増える必要があるのではないかと思います。

○回答内容B：遺跡から出土した海に関する展示が多く、各時代でどのような意図で使われているものなのかということが分った。

○回答内容C：海には色々な生物がいることは知っていたけど、どのような生物か具体的には知らなかったので、海に居る生物の種類をたくさん学べました。

2. 関連事業の内容

■関連事業名①学芸員出前講座（計5回）

【開催日時】平成29年7月24日（月）平成30年2月23日（金）
平成30年2月24日（土）平成30年3月9日（金）

【開催場所】座間味村立阿嘉小中学校図書室及び阿嘉島後原海岸、北大東人材交流センター、北大東村内各所、伊平屋村歴史民俗博物館

【参加者数】85人

【実施内容・目的】

- 沖縄県立博物館・美術館には容易に来館できない離島地域において、特別展『海の沖縄』のアピールと海への興味・関心を持ってもらうことを目的に、伊平屋島、北大東島、阿嘉島において計5回の出前授業を実施した。



第1回出前講座（座間味村）



第2回出前講座（北大東村）



第3回出前講座（北大東村）



第4回出前講座（北大東村）

沖縄県内でも遠隔地である離島地域において、各学芸員が講座、フィールドワークとそれぞれの専門分野を生かして、海の学びを行った。それぞれの離島は小さな島は海に囲まれているために、毎日のように海を目にするものの、その海の成り立ちや島と海との関わりについて、まとまった形で学ぶ機会が無かった。出前講座ではそれぞれの島と海との意外な関わりや、これからの海との関わりについてそれぞれの学芸員が話をまとめて紹介し、地元の方々に対して海に対する理解を促した。

【来館者の声】

- 回答内容A：座間味島の成り立ちについて海と島が深い関わりを持っていたことにとっても感心した。このことは自分でも勉強してみたいと思いました。
- 回答内容B：倭寇の動き海との関係を講話から知ることができ、大変興味深さを感じました。
- 回答内容C：北大東島がプレートの移動によって海中から珊瑚の隆起によってできた島だと改めて確認できました。

■関連事業名② 特別展関連講座

【開催日時】平成29年11月3日（金）、平成29年12月3日（日）

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館特別講堂

【参加者数】147人

【実施内容・目的】

- 特別展関連講座は『一海を越えて広がる世界と琉球（沖縄）一』、『一未来につながる海の利用一』の2回に分けて実施した。前者は沖縄と海がどのような深い関わりを有しているのか、そして、後者では沖縄の海が将来においてどのような活用が見込まれるのかについて10名の専門家によるそれぞれの視点で講演を行った。



第1回特別展関連講座様子



第1回特別展関連講座講師陣



第2回特別展関連講座様子



第2回特別展関連講座質疑応答様子

平成29年11月3日に『一海を越えて広がる世界と琉球（沖縄）一』、平成29年11月3日に『一未来につながる海の利用一』をそれぞれ実施した。

前者は2部制を取り、1部は梶田忠氏（琉球大学熱帯生物圏研究センター教授）が「海を越えて広がる植物」、戸田守氏（琉球大学熱帯生物圏研究センター准教授）が「海を越えて広がる動物」、藤田祐樹氏（国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ研究員）が「海を越えた旧石器人」で報告があった。2部では萩尾俊章氏（沖縄県教育庁文化財課）が「海への豊穡の願い ウンジャミヤハーリーについて」、岡本亜紀氏（浦添市美術館）が「渡る・飾る ～琉球漆器と海～」、上里隆史（法政大学沖縄文化研究所国内研究員）が「海域アジアにつながる琉球王国の海上交通網」で報告を行った。

後者は菅浩伸氏（九州大学 先導的学術研究拠点浅海底フロンティア研究センター）が「高精度海底地形図の作成とその活用」、中西裕見子（大阪府教育委員会文化財保護課文化財企画グループ）が「沖縄海底遺跡ミュージアム構想」、升間主計氏（近畿大学水産研究所）が「海洋資源の持続的利用における養殖」木川栄一氏（国立研究開発法人海洋研究開発機構 海底資源研究開発センター）が「海底熱水鉱床は沖縄の海を熱くするか」での報告を行った。

それぞれ、30 分間の持ち時間内で報告を行い、その後の一般参加者からの質疑応答も2、3ほど出された。

【来館者の声】

○回答内容A：海の中の資源や遺産を守りながらも活用していき、後世に残していくために、現状どんな活動をしているのかを知ることができ、沖縄の海、日本の海に興味を持つことができました。

○回答内容B：将来に向けて利用可能な視点での研究について理解ができた。

○回答内容C：海—その望ましい未来のテーマの海洋博から今日まで、海は逆に環境が悪化している。その現状と課題も聞きたかった。

■関連事業名③ GODAC 出張ラボ：体験学習教室

【開催日時】平成 29 年 11 月 3 日（金）、平成 29 年 12 月 3 日（日）

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館前玄関スペース

【参加者数】60人

【実施内容・目的】

- 『海底資源を採取せよ！水中カメラロボット操縦体験』と題して、海底資源探査をシミュレーションし、海底における資源探査の重要性の理解を促す目的で、GODAC が所蔵している水中カメラロボットの操縦体験を主に低年齢層を対象として実施した。



会場の全体状況



解説展示パネル



体験学習の様子①



体験学習の様子②

国立研究開発法人海洋研究開発機構 海底資源研究開発センター（以下、GODAC）の全面協力の下、2日間で、午前の部と午後の部に分けて、計4回実施した。GODACから派遣された職員による海底調査のレクチャー、水中カメラロボットの操縦体験という内容で約2時間のイベントであった。

親子で海底調査の理解を深めながら、水中カメラロボットに触れる機会が沖縄県内には無いため、参加者全員が意欲的にイベントに取り組んでいた。

【来館者の声】

- 回答内容A：海底資源について実際にロボットを操縦しながら楽しく学べたのが良かったです。
- 回答内容B：どのような様子で海底を調べているのかが、よく理解できた。
- 回答内容C：将来的に海底資源が活用されていくのか、今日の説明でとてもよく分った。このことについては今後、注目していきたいと思います。

■関連事業名④ ふれあい体験室ワークショップ

【開催日時】平成29年10月～平成30年1月の毎週土曜日（計10回）

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館エントランスホール

【参加者数】282人

【実施内容・目的】

- 特別展『海の沖縄』へ関心、そして海に対する親しみを持ってもらう目的で、親子参加型のワークショップを2回のプログラムに分けて実施した。10月から12月は「海へのあこがれ～ジェルキャンドルで小さな海を作ろう!～」を1月は「海へのあこがれ～波もようトートバッグを作ろう!～」を実施した。



会場全体の様子①



会場全体の様子②



ワークショップ 波もようトートバッグを作ろう！ワークショップ 波もようトートバッグを作ろう！

各回定員 40 名、対象年齢は 5 歳から大人まで、約 2 時間のプログラムでワークショップを行った。各回参加者平均人数は 28 名で、親子連れの参加者が大半を占め、親子で仲良くコミュニケーションを取りながらプログラムに取り組んでいた。製作した作品はそれぞれ持ち帰り、活用してもらおう一方で特別展『海の沖縄』のアピールならびにワークショップ後に開催中の特別展への観覧へと繋げていった。

【来館者の声】

- 回答内容A：波の種類がいろいろあって自分でも学習したいと思いました。
- 回答内容B：当たり前にあると思っていた 海について静かに考える機会を得ることができ、感謝しています。
- 回答内容C：海を守りたいです。

■関連事業名⑤ 第 10 回移動展 in 北大東島

【開催日時】平成30年2月23日（金）～2月25日（日）

【開催場所】北大東村人材交流センター

【参加者数】328人

【実施内容・目的】

●沖縄県立博物館・美術館では毎年、博物館まで来館が困難な離島地域に博物館活動の啓蒙を図るために、それらの地域を対象にした移動展を開催している。

今年度の移動展実施地域である北大東村においては沖縄県立博物館・美術館開館10周年特別展『海の沖縄』の内容をよりコンパクトにまとめた形で移動展を実施した。また、協力機関である北大東村教育委員会から要望された博物館所蔵資料もあわせて展示を行った。



北大東村人材交流センター外観



展示準備様子



展示会場全形



展示状況

沖縄県立博物館・美術館開館 10 周年特別展『海の沖縄』をコンパクトにまとめた内容で展示を実施したが、北大東村では漁業が盛んであることと、多くの釣り客が来島するため、今回の海をテーマにした展示内容は多くの観覧者の興味を引き付けたと思われる。このことは、北大東村の人口約 500 人に対して観覧者が 300 名以上にのぼり、約 6 割の村民が会場に足を運んだことから窺い知ることができる。また、北大東村の協力により島内での広報活動を積極的に行ったことも、今回の海の対するテーマへの関心の高さと関係があったものと思われる。

【来館者の声】

- 回答内容 A：北大東の海の凄さを感じることができたと思う。
- 回答内容 B：ジュゴンが生育している沖縄の海を大切にすべきと思う。
- 回答内容 C：大東島の海の生物のサイズが大きいのが分り、食べ物も豊かなんだなと思った。
- 回答内容 D：魚の取りすぎや生き物の誕生などが学べた。

【事業全体のまとめ】

今回のサポート事業を活用したことによって、海をテーマとする関心が高いことを改めて気付くことになった。例年の特別展の観覧者数と比較して30%増であったことや、漁業を主な産業としている離島地域においても、海をテーマにした内容は、その地域の取り組み方から見て、とても関心が高かったように感じた。

また、今回の展示においては本事業の予算で4種類の体験キットを製作し、その5カ所のコーナーを設置した。これは例年の特別展に比べると多くの体験キットのコーナーを設置したことになる。この体験キットを通して、海の生物、歴史、文化をより深く理解することに繋がったことが観覧者からの意見からも窺うことができた。加えて、若年層においては体験キットから海への興味や理解が育まれていくものと感じた。

他に沖縄と海に関係した映像についても、高年齢層からの反応が多くあった。とくに戦前の映像や海にまつわる祭事は観覧者自身の体験とも関係して、改めて沖縄と海とが密接に関わっていることについて再発見したことが意見として窺うことができた。

反対に課題点として、総合展示であるためにテーマが絞り切れていないという点が挙げられる。この展示会を通して伝えたいことが、各分野であまり一貫していなかったように観覧者からの意見から読み取ることができた。今後、総合展示におけるメッセージをより明確に表現する必要があるように思われた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 国立研究法人海洋研究開発機構	資料の貸し出し、情報提供
2. 国立研究法人海洋研究開発機構国際海洋環境情報センター	資料の貸し出し、情報提供、体験学習教室への協力
3. 第十一管区海上保安本部	情報提供
4. ミュージアムパーク茨城県自然博物館	資料の貸し出し
5. 神奈川県立生命の星・地球博物館	資料の貸し出し
6. 国立大学法人 琉球大学	資料の貸し出し、情報提供
7. 株式会社. 武村石材建設	情報提供
8. 琉幸建設株式会社	情報提供
9. 北大東村教育委員会	移動展への全面協力
10. 北谷町教育委員会	資料の貸し出し、情報提供
11. 伊江村教育委員会	資料の貸し出し、情報提供
12. 那覇市教育委員会	資料の貸し出し、情報提供
13. 宮古島市教育委員会	資料の貸し出し、情報提供
14. うるま市教育委員会	資料の貸し出し、情報提供
15. 大宜味村教育委員会	資料の貸し出し、情報提供
16. 伊平屋村教育委員会	資料の貸し出し、情報提供
17. 久米島博物館	資料の貸し出し、情報提供
18. 糸満市教育委員会	資料の貸し出し、情報提供
19. 工房 海彩	情報提供、資料製作

20. 浄智寺	資料の貸し出し
21. 奈良国立博物館	資料の貸し出し、情報提供
22. 沖縄県立図書館	資料の貸し出し、情報提供
23. 清見寺	資料の貸し出し、情報提供
24. 船模型の会	資料の貸し出し、情報提供
25. 沖縄県公文書館	資料の貸し出し、情報提供
26. 沖縄県教育委員会	資料の貸し出し、情報提供、広報
27. 沖縄考古学会	広報
28. 沖縄民俗学会	広報
29. 沖縄タイムス	広報
30. 琉球新報	広報
31. 沖縄テレビ	広報
32. NHK 沖縄放送局	広報
33. 琉球放送	広報
34. 琉球朝日放送	広報
35. 琉球エアコミューター	広報、航空券提供

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 沖縄タイムス	県博・美きょう開館 10 周年 「海」テーマに特別展 1 月 1 日
2. 琉球新報	10 年の節目 海の魅力満載 11 月 2 日
3. 琉球放送	旬感！Q アプリ：「10 周年記念式典」 11 月 1 日
4. NHK 沖縄放送局	おきなわHOTeye：「海の沖縄」展 11 月 28 日
5. 沖縄テレビ	FNN ワッターまちやぐわー：「海の沖縄」 12 月 7 日

以上